

香川県教育委員会 4 月定例会会議録

1. 開催日時 令和 6 年 4 月 23 日 (火)
開 会 午前 9 時 30 分
閉 会 午前 10 時 57 分

2. 開催場所 教育委員室

3. 教育委員会出席者の氏名

教 育 長	淀 谷 圭 三 郎
委 員	藤 澤 茜
委 員	木 下 敬 三
委 員	蓮 井 明 博
委 員	鳥 取 美 穂
委 員	持 田 め ぐ み

4. 教育長及び委員以外の出席者

副教育長(兼)新県立体育館整備推進総室長	海 津 洋
教育次長(兼)政策調整監	塩 田 広 宣
教育次長	吉 田 智
総務課長	近 藤 高 弘
義務教育課長	荻 原 絢 嗣
高校教育課長	長 林 真 司
特別支援教育課	笠 井 幸 博
保健体育課長	渡 邊 浩 司
生涯学習・文化財課長	佐 々 木 隆 司
政策主幹(兼)総務課副課長	宮 西 正 博
義務教育課長補佐(兼)主任管理主事	東 条 直 樹
高校教育課長補佐(兼)主任管理主事	三 笠 善 宣
高校教育課長補佐(兼)主任指導主事	佐 伯 卓 哉
高校教育課主任指導主事	水 野 伸 吾
高校教育課主任指導主事	高 鳥 光 郎
高校教育課主任指導主事	井 川 靖 夫
特別支援教育課主任指導主事	岡 孝 弘
義務教育課主任	宮 本 将 弘
高校教育課主任	西 野 慎 吾

傍聴人 0 名

5. 会議録の承認

3月20日に開催した臨時会の会議録署名委員の藤澤委員から、同臨時会の会議録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

3月28日に開催した定例会の会議録署名委員の鳥取委員から、同定例会の会議録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

6. 非公開案件の決定

教育長から、本日の議題のうち、議案第1号、第2号は、教育委員会において会議を公開しないことと定めているもののうち、「個人に関する情報であって、公にすることにより、なお、個人の権利利益を害するおそれがあるもの」及び「県の機関が行う事務に関する情報であって、公にすることにより人事管理に係る事務に関し、公正かつ円滑な人事の確保に支障を及ぼすおそれがあること」に該当するため、非公開としたい旨を発議。

各委員に諮り、非公開とすることに決した。

7. 議案

○議案第1号 教職員の懲戒処分について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

○議案第2号 教職員の退職手当の支払差止処分について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

8. その他事項

○その他事項1 令和6年3月香川県公立高等学校卒業者の就職内定状況について

高校教育課長から、令和6年3月香川県公立高等学校卒業者の就職内定状況について説明。

【質疑・意見交換】

＜蓮井委員＞県内・県外の就職率は、令和5年度も令和4年度と同程度の就職率となっている。しかし、長い目で見れば県内就職率は増えているので、引き続き注目していきたいとの認識でよいか。

＜高校教育課長＞県外が増えている。

＜蓮井委員＞そうであれば、県も地元経済界も取り組みの成果が十分表れていないことになる。人手不足が全国的に深刻化しており、県内就職率を上げていこうとしている。そのような中で、県外へ出ていく比率が増え続けている。

＜高校教育課長＞県外就職の希望を持っていた生徒の多くは、その理由として自分が希望する企業や職種がなかった、又は公務員になりたかったとのことで、昨年度は公務員志望の生徒も多かったと聞いている。

＜蓮井委員＞そのとおり、県内大学生の意識も、県内高校生の意識と全く同じで、地元就職するよう働きかけても、学生からは県内は魅力ある企業が少ない、給料が低い、職種も希望するものがない、公務員志望だと地方よりも中央の方が採用されやすい等、同じ答えが返ってくる。この問題は一朝一夕には解決しない。改めて県内企業の魅力を高めていかなければならないと思った。

＜木下委員＞公務員志望が多いとのことだが、令和５年度に県外に流れた１３．６パーセント、１２０名の内、県外の公務員になった者がかなりの数いるのか。

＜高鳥主任指導主事＞県外の公務員になった者は２７名である。

＜木下委員＞県内の人数は。

＜高鳥主任指導主事＞県内は４１名である。

＜木下委員＞県外の公務員比率はかなり高い。

＜教育長＞県内就職の取り組みはどのようなものがあるのか。

＜高鳥主任指導主事＞県内就職の取り組みについては、キャリア教育充実事業の中で、働き方に関する講習会、就職支援セミナー、労働局主催の企業説明会、中小企業家同友会や香川県中小企業団体中央会の企業説明会、現場の高校教員に対していろいろな情報を提供している。

＜高校教育課長＞中小企業家同友会と協力したインターンシップを、三木高校、飯山高校、志度高校、高松商業高校で行っており、県外の様々な方から質問をいただく等、注目を集めている。本年度は観音寺総合高校も、総合学科で取り組んでいく。

＜教育長＞その取り組みは数字に表れているのか。その取り組みを行った高校は県内就職率が高い等。

＜高鳥主任指導主事＞その取り組みを始めてから、三木高校で５年経つ。県外や県内大学に進学した大学２年生までがインターンシップの経験をしている。先日も三木高校で生徒や卒業生と企業の経営者等との交流会を開催し、山形大学の先生を招いていたが、２年後にどのような変化が現れるのか見守りたいとのことで、調査し、報告いただけることになっている。

＜教育長＞では、数字は出ていない。

＜高鳥主任指導主事＞はい。

＜高校教育課長＞三木高校は大多数の生徒が進学する。

＜蓮井委員＞補足すると、サンプリングのため、全体の数字は自信を持って言えないが、三木高校の総合学科を卒業し高松大学に入学した学生は、引き続き大学のイン

ターンシップで地元企業に行き、地元企業に就職する事例はある。ただ、それが多数派であるのかはわからないが、何かしらのきっかけになっていると思う。注目されているので、引き続き力を入れて欲しい。

＜教育長＞県内企業や経済団体に高校生の雇用をよろしくお願ひしたいと依頼している。高校の取り組みとして、生徒へキャリア教育の充実や、県内企業や経済団体とともに魅力を伝えているが、現状ではまだ効果が表れていないのか。

県内企業や経済団体から、県や県教委から雇ってくれと依頼されるが、雇うためにどのような取り組みをしてくれているのかと言われる。その際に、きちんと取り組みを行っているが、最後は生徒の意思と言ってよいのか。

＜吉田教育次長＞時間はかかる。今までより地元就職の意識は高くなってきている。

＜教育長＞数字に表れていない。徐々に県外就職の割合が増えている。相対的に見た中で、就職希望者が減っている上に、県外流出が増えている傾向が続いている。

これから、経済団体へ高校生の就職をよろしくお願ひしたいと依頼に行くが、その際に、高校生に地元就職を促しているが結果は出ていないことをどう伝えればよいのか。高校生に地元就職を促している、と言い続けるしかないのか。

＜吉田教育次長＞それしかない。ここ数年は県外の大企業の募集が多い。そこに県内企業を並べると、厳しい。

＜教育長＞それならば、経済団体へ高校生の就職をよろしくお願ひしたいと依頼に行かなくてもよいのでは。

＜吉田教育次長＞長い目で見ると、経済団体へ高校生の就職をよろしくお願ひしたいと依頼することに意味はある。

＜蓮井委員＞反対解釈をすれば、このような取り組みを行っていなければ、もっと県外流出が増えている可能性がある。その背景として、今言ったように全国的に求人が多く、コロナ禍を経て、オンライン面接がものすごく普及しているので、高校生も大学生も場所の移動をせずに、中央の企業と接触するのが増えている。

＜教育長＞景気の要因はあるかもしれないが、20年、30年といった時系列で数字を出して、県内企業就職率の推移と、県教育委員会が高校生へどのような取り組みをしてきたのかを見なければならぬ。現在行っていることの効果が無い場合は、変えなければならぬ。2000年以降でもリーマンショック後でもよいので数字を見ていく必要がある。

＜蓮井委員＞確かに、時系列で追っていないと1年や2年の変化ではわからない。

＜教育長＞今回は令和5年度と令和4年度の数字が並んでおり、去年は令和4年度と令和3年度の数字が並んでいた。2か年だけのものを報告する意味はあるのかと思うので、長いスパンで総括をするようにして欲しい。

＜藤澤委員＞県外の高校を卒業して、香川県へ就職する割合等は分かるのか。出ていくのに合わせて帰ってくる者の数字は分かるのか。

＜吉田教育次長＞それは知事部局で調査しており、数年分ではあるが、数字はあると

思う。高校生にどこへ就職するのかアンケートを取る。

＜副教育長＞岡山等の高校からくる場合でもわかるのか。

＜吉田教育次長＞岡山からくる場合等は、高校教育課に数字はない。地域活力推進課ならあるかも。

＜教育長＞地域活力推進課にもない。就職支援協定大学のUターン率ならあるが。

＜蓮井委員＞定量的な分析は難しいので、定性的な情報しかない。大学共創プラットフォームでは、保護者に働きかける重要性を言っている。金融界では大正徳島銀行が新入社員のイベントに保護者を全員呼び、銀行の働き方の説明をしたのが全国ニュースになっていた。自分の体験からすると、非常に驚くことではあるが、今は就職するのも離職するのも、保護者の影響がものすごく大きくなっているらしい。今はそのような状況であるため、大学生や高校生の就職も、保護者をどのようにして巻き込んでいくか検討しなければならない。これからは、保護者を意識する視点が大事。

＜教育長＞保護者にもアプローチする方法を、何年か前から行っているが、抽出された数しかわからない。高校の先生からすれば、本人の意思、との話になる。高校生になれば本人の意思があり、それを尊重したいというのが先生の偽らざる気持ちである。生徒に県内にいるように、とはなかなか言えない。本人が持っている希望に沿って支援するのが教師だと思う。高校生の就職について、実態を踏まえてどのような政策をとるのか、深掘りが必要である。その前提として、数字を見たい。県外就職がよくないとは、先生もなかなか言いにくいと思う。

＜木下委員＞過去10年15年の県内就職率や人数を出してほしい。1年違うだけで、県内就職者数が830名から762名に70人も減っている。率はほとんど変わらないが、絶対数が減少している。

＜教育長＞高校生の就職率の減少と県内就職率の減少では、どちらの方が傾きが大きいのか。全体の減少率の方が緩やかなのか。

＜吉田教育次長＞生徒数が減り、就職率が減り、さらに県内率が下がっている。

＜教育長＞就職者数そのものが減り、その中で県内が減る。どちらが緩やかか。

＜高校教育課長＞10年間の数字があり、10年前は就職内定者数が1,164名、現在が882名で、緩やかに減り続けている。県外内定者数は平成24年度から、79名、103名、128名、142名、131名、142名、133名、140名、136名、115名、127名、120名と、最初は少なかったが、130名前後を推移している。全体の内定者に対する県外の割合が、最初は6.8パーセントだったが、9.6、10.6と少しずつ増えてきた。

全体の内定者自体が減ってきた中で、県外が一定数いるため、県外割合は増えている。理由については、先程からもあるように、県内よりも県外企業に魅力を感じていることと、公務員志望者がいるためである。公務員志望は、去年が一番多く、今年は県外企業に魅力を感じたものが多かった。数字は同じように推移している。

＜教育長＞いずれにしても、県内経済団体へ要請に行かなければならないので、もう少し分析してほしい。

＜藤澤委員＞県外企業の魅力の内容が、もっと具体的に分かれば対応策が分かると思う。

○その他事項 2 令和 6 年度香川県公立高等学校入学者選抜学力検査の概評について

高校教育課長から、令和 6 年度香川県公立高等学校入学者選抜学力検査の概評について説明。

【質疑・意見交換】

＜木下委員＞先程、競争率が低下傾向にあるとのことであったが、入学定員は卒業生数に応じてその都度決めているにもかかわらず、競争率が低下しているのは、受けない生徒が増えているのか、私立高校に行く生徒が増えているのか、どのような原因からそうになっているのか。

＜高校教育課長＞今は公立、私立の垣根がなくなっていると言わざるを得ない。原因はたくさんあるが、私立高校授業料の実質無償化により、私立学校に流れていく一定の層がいる。公立でなければとの意識が低くなってきており、私学は宣伝も非常にうまく、合格発表の時期も早い。近年では、普通科志向の生徒も多くなっている。そのような状況を踏まえ、高校教育課としても、改めて県立高校の魅力化や特色化をサポートしていきたいと考える。他には、広域通信制高校への進学も非常に多くなっている。

＜木下委員＞今の状況を踏まえて、最初から定員を狭め、志願率を上げることは考えていないのか。

＜高校教育課長＞公立に行かせたいとの思いを持つ保護者も一定数おり、特に専門学科は公立高校にしかないので、普通科と職業学科の比率は今のまま、一定確保したいと考えている。また、志願率を高めるために、全体の定員数を縮小することは考えていない。

＜木下委員＞募集定員に達しなかった場合は、どのような取り扱いになるのか。全員が合格するわけではないとの認識でよいのか。

＜高校教育課長＞定員が満たされていない場合は、全員をその学校で受け入れるのが基本ではあるが、入学した生徒の資質等が担保されなければ、進級や卒業できないことになる。そのため、各学校で一定の基準を設け、定員内であっても不合格を出すことは現状行われている。

＜持田委員＞今年の入試問題を見ると、部分点を含めて各問の点数が空欄になっている。これは非公表の状態で採点されているのか、事後に公表されるのか。また、学校により部分点の裁量の余地はあるのか。

- ＜佐伯課長補佐＞部分点については、各学校で基準を設けて採点している。
- ＜持田委員＞問題ごとの配点は決まっているのか。
- ＜佐伯課長補佐＞基本的に小問の配点については、各学校で変えることができるが、公表はしていない。
- ＜教育長＞配点は明らかにしているのか。
- ＜持田委員＞配点がどのようなになっているのかを聞きたい。全体が50点満点になっており、1から5まで問題があるうちのそれぞれの配点や、その中の小問の配点が、高校ごとの裁量になっているのか、それを公表しているのか聞きたい。
- ＜佐伯課長補佐＞標準配点というものがあり、各問題が何点になるのかは公表している。
- ＜持田委員＞標準配点は事後に公表するのか。受検生が問題を解いている段階ではわからないのか。
- ＜佐伯課長補佐＞学力検査実施後に、正答を公表するときに、標準配点も公表している。解くときにこの問題が何点であるかは示していない。
- ＜持田委員＞意図があってそのようにしているのか。
- ＜佐伯課長補佐＞特に大きな意図があるわけではない。
- ＜教育長＞大学入試ではどのような取り扱いとなっているのか。大学入学共通テストに、この問題は何点と記載されているのか。
- ＜吉田教育次長＞記載されていない。
- ＜持田委員＞事後的に分かるのか。
- ＜佐伯課長補佐＞そうである。実際にその問題の配点はその場ではわからないが、受検生は昨年の問題を解いているので、大まかな配点は分かると思う。
- ＜持田委員＞根本的なことであるが、どのような理由で各教科50点満点にしているのか。
- ＜佐伯課長補佐＞従来からこの配点を続けている。他県では100点満点のところもある。一方で学力検査以外に、中学校から調査書が提出されており、調査書の学習の記録の評価は220点分ある。それを学力検査の点数と同等にみて総合的に選抜をしており、220点に近い5教科250点満点としていると思う。
- ＜教育長＞250点にしている考え方はあると思う。私が受検した時は、1教科40点、5教科で200点満点であった。
- ＜吉田教育次長＞幅広い思考力を問う問題を出したいので、10点分増やして50点にしたと聞いたことがある。
- ＜教育長＞記録を紐解けば、考え方が残っていると思うので確認するように。可否については、各学校で判定委員会等を開いて、教育長に報告するとなっている。
- いずれにしても一般選抜の志願変更後の競争率1.11倍は過去最低と言ってよいのか。また、定員割れの高校数も過去最多でよいのか。
- ＜高校教育課長＞競争倍率も定員割の高校数についても、その通りである。

＜藤澤委員＞中学校で勤務していて、私立の入試が終わると、生徒の気持ちがちょっと切れて、休んだり、公立の入試まで気持ちが持たない生徒が増えてきたと感じる。また、サポート校や広域通信制の高校に進む生徒を見ると、面談だけで入学できる等、生徒の負担もあまりなく誰でも受け入れてくれる。様々な進路選択の方法が以前に比べて生徒にあるため、公立以外の選択肢も増え、そちらに流れているように感じる。

○その他事項3 「クラサポかがわ（香川県地域クラブ活動等指導者人材バンク）」
の運用について

保健体育課長から、「クラサポかがわ（香川県地域クラブ活動等指導者人材バンク）」の運用について説明。

【質疑・意見交換】

なし。